



第10回森林塾報告 テーマ「先進地見学」

『保残木マーク法発祥の地』

長野県の最南端に位置する根羽村は愛知県豊根村、稲武町、津具村、岐阜県上矢作

町と隣接し、他の伊那谷の市町村が天竜川水系に属す中、平谷村と共に矢作川水系に属

す山村です。年降水量は伊那市のほぼ二倍にあたる二千四百ミリに達し、年平均気温は十二度超の、まさに太平洋側、スギの生育にぴったりの気候です。

発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
編集 早川清志
題字 島崎洋路



この大杉は千八百年もの間、人の営みを見守り続けてきました

昭和三十二年に実験的に始められた保残木マーク法は、数年後には「林業立村」を標榜するこの村の、大径材生産の手法として広く取り入れられるようになり、今日にいたっています。とはいえ、なにせ

れたことがありますが、スギ林に煙るよう以降る雨の美しさが印象に残っています。よく育つという事は、反面、油断していると手遅れ状態になりやすいという事で、こんなことも島崎先生が「保残木マーク法」を思いつかれた下地であったかもしれせん。

森林塾では以前、初夏に訪



豪華装備搭載のKOAバス

村の面積の九十二パーセントが山林で、その四分の三が人工林。村や森林組合の懸命な努力にもかかわらず、適正に間伐が実施されているのは二割程度(島崎先生)ということとで、長野県内の林業先進地といえども苦しい、模索の状態は続いています。

一般からの基金を募ったふるさと森、矢作川下流の安城市の協力でできた水源の森など、時代を先取りしたこの村の林業政策は、同じ悩みを持つ全国の多くの山村のお手本になるはず。森林組合でもやる気のある若者を何人も受け入れ、自助努力を怠つ



本日のツアーコンダクターは島崎先生です

ていません。木花咲耶姫を祀った、浅間神社の杉林は見事なものでした。下生えも十メートル近くになっているのですが、その上に顔を出す三十数メートルのスギ。適正な手入れさえすれば、そう遠くない将来、そここに、こんな林ができていくはず。今回の内容

第10回 9月15日(土) 林業先進地の見学

8時30分

KOAパインパーク集合。マイクロバスで根羽村へ出発。伊那から中央高速を通って飯田まで、そこからはR一五三号線。

根羽村は岐阜県と愛知県に接し長野県最南端に位置します

10時 信州平谷の道の駅で休憩

10時15分 根羽村役場で名古屋方面から来た

トトロもびっくりの大杉、枝は青々として元気そう





富士山と同じ神様を祀る浅間神社



キャブジョン

人と比べるとその大きさがわかる



正体不明の団体、茶臼山でくつろぐ



ヒノキの美林「ふるさとの森」



バスの長旅お疲れ様でした

人を公園

10時40分 月瀬の大杉見学。幹周14m。樹高40m。樹齢千八百有余年。昭和19年11月に天然記念物に指定。「昔から虫歯があるものが祈願すると霊験が著しく、また大事変が起こるときは前兆として、大枝が折れると語り継がれている」(説明文より)大杉の前で記念撮影

11時30分 浅間(せんげん)

神社林を見学。林齢約80年、樹高30数mの大径木の見事な杉林である。昭和52年に島崎先生が最初に保残木マーク法で間伐された場所。当時、樹高30m、平均直径38cmのスギが8haに九百本あり、本数が多すぎた。ここをみれば、百年たつてなくても美しい山ができることを示している。とにかく、高さの二割をあげるという

うこと頭において、山は切らなければならぬ

12時20分 神社出発

1時 愛知豊最高峰 茶臼山(標高一四一五m)で昼食。小雨がぱらつく生憎のお天気。お天気がよければ浜名湖が見えるとか。上原さん大量持参の巨峰が配られる。甘くて美味しい。ごちそうさま

1時45分 茶臼山出発

2時10分 ふるさとの森見

これからの林業は土地所有者と木を育てる人を分けた分収林が主流になってくるだろうと思われる

2時20分 根羽村役場前で名古屋方面に帰る人を降ろし、KOAパインパークに向けて帰路につく。

2時50分 ドライブイン・ネパールのアイスクリームがおいしいと評判で、途中下車

4時30分 KOAパイン



樹高45mという説もある



「うちの山と同じくらい良い山だね」

学。ここは30年契約、一口60万円で百五十人から基金を募りそのお金の一部を維持管理費に充て、将来の収益を契約者に分配すること約束している分収林。



パーク着。島崎先生、保科先生の挨拶後、解散。

早川さん、運転ご苦労様でした

参加者/上原さん、奥嶋さん、風見さん、片岡さん、菅さん、佐藤(誠)さん、塩谷さん、白壁さん、溜さん、伴野さん、長坂さん、中村さん、久部さん、藤野さん、松ノ元さん、松本さん、桃澤さん、森さん夫妻と麟太郎くん、山浦さん、池田さん、稲垣さん、鈴木さん夫妻と澁杜くん、則竹さん、芳賀さん、藤本さん

講師/保科先生、島崎先生、スタッフ/椎原、大野、此村、坪木、早川

次回以降の予定

第11回 10月6日(土) 枝打ち、刃物の手入れ

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。午前中はロープのアイ加工とぶり縄作り、そして木登りの練習。午後は近くのヒノキ林での枝打ちと、刃物砥ぎをする予定です。

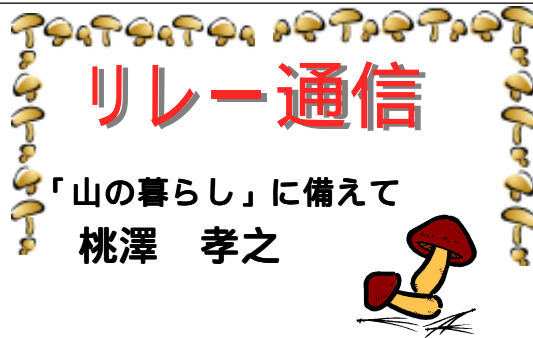
第12回 10月20日(土)

木材市場の見学を予定しています。8時30分 島崎先生の山小屋に集合。

Bコース秋の部 11月1日(木)〜3日(土)

森林調査(樹木分類、測樹)から間伐、伐出まで一連の作業を、実践を通して身につけてもらいます。

塾生募集中 (10月10日締め切り)



リレー通信

「山の暮らし」に備えて 桃澤 孝之



第7号リレー通信に「森林塾に集まってくる正体不明の人々」とありましたが、私は決して怪しい者ではありません。自己紹介します。本職は長野県庁に通うお巡りさんです。とかく煙たがられる職です。長野市に住んでいますが、都会で無駄飯を食べた後、信州に戻り、職の性質上、これまで長野市、飯田市、軽井沢町、松本市、諏訪市に住民登録をしており、県下を転々としています。



もつ少し早く「森林塾」と「森林塾に集まってくる正体不明の人々」に巡り合っていたら、これまで暮らしてきた土地土地で、本職の傍ら、「山」や「山の文化」について造詣も深まり、ささやかな喜びも見出せたのにと悔やまれます。夜の街に投資しすぎました。

伊那の地は東に南アルプス赤石山脈、西に中央アルプス木曾山脈、この間を諏訪湖に源を發する天竜川が流れています。私の故郷は、鳥崎先生の山小屋から南方へ車で十分ほどのところにある上伊那郡中川村です。河岸段丘上にそれぞれの集落がある山村です。

伊那谷の名物は「ザザムシ」と「五平もち」でしょうか。「ザザムシ」は、天竜川の川底に生息する昆虫の幼虫のことで、主につくだ煮にして食べます。結構いけますが、料理する前の姿を見たら、多くの人は、食べるのをためらいます。でも森林塾に通う人は、何の疑問も持たずに食べるような気がします。

私は母のつくる「五平もち」が大好きです。ご飯をすりつぶして竹串に刺したもので、クルミとサンショウ

と砂糖を入れた味噌をすりばちですりつぶし、その味噌を塗り、おきの上で焼きます。その香ばしい香りは、絶妙です。年に一度か二度、兄妹がそろった時とか、遠来の客があつた時、母が作ってくれます。

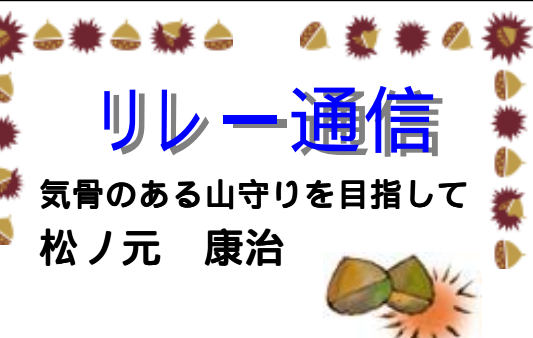
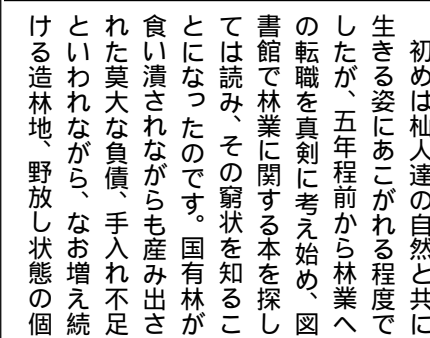
父は孫(私の子供、現在十二歳)が生まれた翌春、私共を樹齢四十年位のヒノキ、スギが育つ「うちの山」へ連れて行き、そして少しばかりのヒノキを植えました。作業の合間に少し高いところに腰を降ろし、木立の上を吹き抜ける風を眺めながら父は「親父が植えた樹だ。困ったときは、売ればいいと思ひ育てきた」とポツリ。私は樹の成長とともにある、一族の営みに思いを馳せ「山つていいなあ」と感動したことを覚えています。その後、二男が生まれた時も同じように樹を植えました。

少し前に土地の名寄せをしたら、私は父祖伝来の山林約二・七ヘクタールを所有する「山持ちさん」ということでした。しかしながら、ほとんどの零細所有者と同様所有林の境界さえわからない有様です。思えば保科先生の七十ヘクタールは、とてつもない広さですね。

おくらばせながら、先日昼休みに県庁の敷地内を歩いてみました。ヒマラヤスギ、トチ、木曾五木(ヒノキ、サワラ、コウヤマキ、アスナロ、ネズコ)など約三十種がありました。もちろん、今の私には樹木分類できる知識はありません。これらの樹木にはネームプレートが掛かっており、その説明もありました。楽しみつつ身近なところにあるんですね。

この頃、図書館で借りる本も、机の上に積み上げられる本も「山」、「樹木」、「林業」に関するものばかりです。私が寝転んで、本を読んでいると、小学生の二男坊や末娘が「お父さん、面白いの?」って不思議そうな顔をして覗き込みます。

農耕民族である日本人は、縄文の時代から(稲作農業は、弥生時代からかな)、春には山菜をとって、夏や秋には木の実を食べたり、冬には狩をするというように、自然の恵みを受け、時には痛め付けられ、巡る季節に生かされるというような生活をしてきたと思つたのです。私の体には農耕民族の血が色濃く流れているせいか、「山の暮らし」は、究極の娯楽だと思ひ込んでおり、妻は「お父さんのピヨウキがまた始まった」と冷ややかな目で見ています。



リレー通信

気骨のある山守りを目指して 松ノ元 康治



昨年三月に神奈川県横浜市から長野県飯田市へ移り住み、森林組合の作業員として働いております。いわゆるITターン。駆け出しです。今回の依頼を受けて今までのリレー通信を読みかえし、皆さんの行動力に改めて驚いております。私は山の仕事に興味を持ってから就職を実現するまで、十年かかってしまいました。なんと腰の重いことでしょう。

初めは拙人達の自然と共に生きる姿にあこがれる程度でしたが、五年程前から林業への転職を真剣に考え始め、図書館で林業に関する本を探しては読み、その窮状を知ることになったのです。国有林が食い潰されながらも産み出された莫大な負債、手入れ不足といわれながら、なお増え続ける造林地、野放し状態の個

人所有林、長年にわたる林業不況、斜陽(実際には崩壊している)産業といわれる一方で叫ばれる人手不足や後継者不足。

矛盾だらけで解決の方向すら示せずにいることに憤りを感しながらも、山守りの一員として微力ながら山造りに携わりたい気持ちが強くなりました。しかし林業が山造りよりも産業自体を維持することに重きを置いているのではないかと、職として山造りに携わることが本当に山林のためになるのだろうか、という疑問と迷いを振り払えずにいました。

そうこうしている時、林業への思いを確定的にする出会いがありました。蕎麦屋でたまたま手にした雑誌。あるご年配の林業家のインタビュー記事が掲載されていました。石井賀孝氏。北海道に所有する五百四十ヘクタールの山林で高密度の林道を整備し、天然、人工、多層、混交といっ



た多層的バランスの中で良い木を残していくという『貴化施業』を提唱し、二十三世紀を目標とした森造りを実践する方です。「森というのは人の暮らしと関わっている以上、手の入れ方次第で貴くも醜くもなる。健やかな風土を育て、人を潤す森にするには、貴い森に育つように確固とした哲学と愛を持って関わっていかねばならない」林業は、自然を抑えつけないのではなく、人のほうが自然に順応する仕事だ。これらの氏の言葉に感銘を受け、これぞ自分の目指す道と確信してしまいました。そこで「この森で働きたい。ここで森造りを学びたい」という思いをお便りしましたところ、現在は家族経営で新たに雇い入れることは出来ないという残念な御返事でした。当然予想していたことですが。しかし、何より残念であったのは賀孝氏と後を継がれた息子さんに続けて御不幸が訪れたことでした。そのような状態でしたが、御家族の皆様のお好意で森造りのお手伝いと、石井山林に関わる方々と意見を交わす機会を頂きました。美しく、たくましい森は自然との対話なしには成り立たないことを直感させ、また自分の無力さを実感させられました。自分は基礎的な知識も技術もなく、理想的な山造りを妄想していたに過ぎず、スタートラインにすら立っていませんでした。迷いは消え、そこから道を切り開くことでした。

たないことを直感させ、また自分の無力さを実感させられました。自分は基礎的な知識も技術もなく、理想的な山造りを妄想していたに過ぎず、スタートラインにすら立っていませんでした。迷いは消え、そこから道を切り開くことでした。

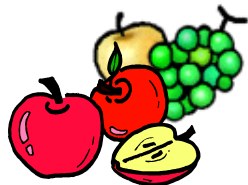
幸運なことに、その五カ月後に飯田で職につくことが出来たのです。実際に山の仕事を始めてみると知らないことだらけ。経験こそが全てで暗中模索しておりました。しかし、森林塾へ通うことで進むべき一筋の道が照らし出されたように思います。森林塾で教わる内容は職として山造りに携わるものにとっても基礎として必須の重要なものであると思えます。その証拠に今年から長野県で林業従事者教育および新規参入者の育成のために始まった「きこり養成講座」は森林塾とほぼ同じ内容であります。しかしこの講座では島崎先生と保科先生がお持ちのような、実践に裏付けられた深い知識や山造りへの情熱と理念に触れることは出来ないでしょう。

森林塾という恵まれた環境で山造りを学ぶ機会を頂いたことに感謝して、保科先生のお言葉「山造りの師匠は自然である」を胸に刻み、島崎先生、保科先生、石井賀孝氏の

ように気骨のある山守りを目指すに精進いたします。また森林塾参加者の皆様が活躍の場を上げ、各々の道を切り開くことを願っております。悲しいかな森林塾は終盤を迎えますが、宜しくお願いいたします。

スペースが余りましたので余談ですが、実りの秋、伊那谷は果物が豊富になります。特にリンゴは品種を変えて初秋から初冬まで、常に新鮮で各々個性的な味が楽しめます。リンゴって美味しいなと改めて感じる事が出来ると思います。

果樹園や無人販売所で安く入手できます。是非お試しください。



コラム

前回の通信の頃はさわやかな秋の到来気分だったのですが、その後数日は秋雨前線や台風の影響で伊那では珍しく雨が続きました。やっと天気も回復してきたと思ったら残暑が戻ってきたようで、さわやかな秋晴れの空はもう少しお預けでしょうか。展望を期待して山に登っても霧で何も見えがっかりということも。次回の森林塾の頃には抜けるように高い青空が広がっ

てほしいものです。こんな不順な天気の中で、俄然元気を取り戻したかのようには蜘蛛が至る所に巣を張り始めました。夜の暗闇の中、アパートの廊下は電気がずつとついているので、おびただしい数の虫が集まってきます。その虫を狙ってか、蜘蛛も集まってくるようで、昨年初めて来た時には虫の死骸を踏まずには歩けないほどで恐怖の館並みでした。今年は猛暑のせいか虫の数も少ないような気がしますが、それでも頭上には蜘蛛の巣にかかった虫がすだれのようになっていますし、足元には十センチは裕にある蛾が転がっています。大きな蜘蛛の巣は放っておけば日々成長し、とても頑丈で立派な巣になってしまいい、指で触ったくらいでは切れそうもありません。

本来虫は苦手なのですが、苦手な虫も自然の一部、伊那では避けて通れませぬ。毎日見ていると多少は慣れてきた気も…。脱皮して大きくなっていく姿を観察中です。「テッカマン」

残暑が続いています。Bコース夏の方付けをすべく、キヤトラを運搬中にアマタ

おわりに

残暑が続いています。Bコース夏の方付けをすべく、キヤトラを運搬中にアマタ



投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。TEL 0265-70-7065 FAX 0265-70-7994 E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp sh-sakano@koanet.co.jp mi-tsuboki@koanet.co.jp 携帯:0902-53-26375 (開催日) H.P.http://www.koanet.co.jp